

令和4年度

関係人口創出・拡大のための  
中間支援モデル構築に関する調査・検討業務

業務実施報告書  
(概要)

団体名	一般社団法人北海道総合研究調査会
事業名	高・大・地域連携による人材育成・人材循環の仕組みづくり
選択テーマ	まなび関係人口について（地域内関係人口について）

- 北海道内の地方部にて魅力化に取り組む高校と立地自治体において、地域課題の解決策を探る「**探究型学習**」にデジタル先端技術を活用しつつ、札幌圏の大学生・大学教員が協働で取り組み、札幌圏と道内地方部を越境・循環しながら地方創生を担う人材を**高校・大学から育成する仕組み**を構築する。

## 主な活動内容

### 1. 鶴川高校における探究型学習「むかわ学」において、大学生らが協働し、高校生の課題発見から提言発表までを支援

- 鶴川高校3年生10グループのうち4グループ（クレーブ班、コスプレ班、スマート農業班、キャンプ場班）16人の取組に大学生11名が協働で参加。
- 7月意見交換会、8月むかわ合宿、9～10月班別活動、11月意見交換会等の活動を経て、12月にむかわ学提言発表会にて発表。
- 高校生・大学生向けに地域課題解決につながるデジタル技術に関するセミナーを2回開催。

### 2. 札幌大学において「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ」とした半期15コマの講義を実施

- 札幌大学の講義では、むかわ町住民6名を講師として招くなどの取組を実施（参加大学生54名）。

## 主な成果

### 1. 参加者や地域の声

- 大学生と協働した高校生では「将来地域住んで地域課題に関わりたい」との回答が38.5%で、他の高校生と比べ割合高い。
- 大学生では、「活動を通じて地域で働く姿を想像できたので、地方で働くことが選択肢の一つとなった」との声があった。
- 提言発表会参加の地域住民の約6割が探究型学習に関わりたいという意識。

### 2. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 高校生・大学生が地域の人と意見交換する中で、地域資源に対する見方や地域で働くことに対する意識が変化。
- 高校生・大学生がワークショップ方式に慣れるに従い、他者の異なる意見を取り入れ、提言を改善していく力をつけられる。
- 地域課題の発見について、高校・大学ともに指導方法をプログラム化していくことが必要。



7月意見交換会



8月むかわ合宿



11月意見交換会



札幌大学 教員発案型授業

## 課題解決のための取組と成果

### 課題① 地域課題の分析力・対応策の構築力の向上

- データ分析や地域住民へのヒアリング方法、他事例比較などでステップアップが必要（高校の課題意識）。
- ファシリテーターとして大学生を参加させ、地域課題の把握や対応策の検討を一緒に行い、能力向上を目指す。



大学生スキルアップ研修

ファシリテーション全てを任せるには大学生に経験が少ないことがわかったため、札幌大学と中間支援組織が協力し「大学生向けオリエンテーション」「大学生スキルアップ研修」を実施

- 地域外の社会資源を活用した地域課題提案がなされた。
- 「①町民や専門家の話を聞き、理解する力」「②仲間（高校生・大学生）と意見交換し、自分の考えや行動を整理する力」「③地域課題の分析から提言までのストーリーをまとめる力」が高校生・大学生に身についた。

### 課題② 地域と関わる将来像への意識の醸成

- 大学進学などで一度は地域を離れてしまっても、再び地域の課題を解決するための人材として活躍できる意識の醸成が必要。
- 大学生にとって地域は実践の場。二地域居住など将来の関係人口への意識を醸成。



高校生と大学生によるクレープ販売実習

新事業を興す難しさや楽しさ、役割の重要性などを感じることができ実践機会が重要。マーケティング調査や販売実習、実際のイベント実施などの機会を提供

- 地域の課題が身近になり、さらに自分でもできるということを実感できたことで、むかわ町だけでなく人口減少に直面する地域全体へ関わろうという意識変化につながった。

### 課題③ 汎用的な仕組みの構築

- 取り組みやすいこと、地域住民など周辺が取組を応援すること、関わった人が外部に発信し別の人を呼び込み続けること、といった継続的なプログラムの構築が必要。

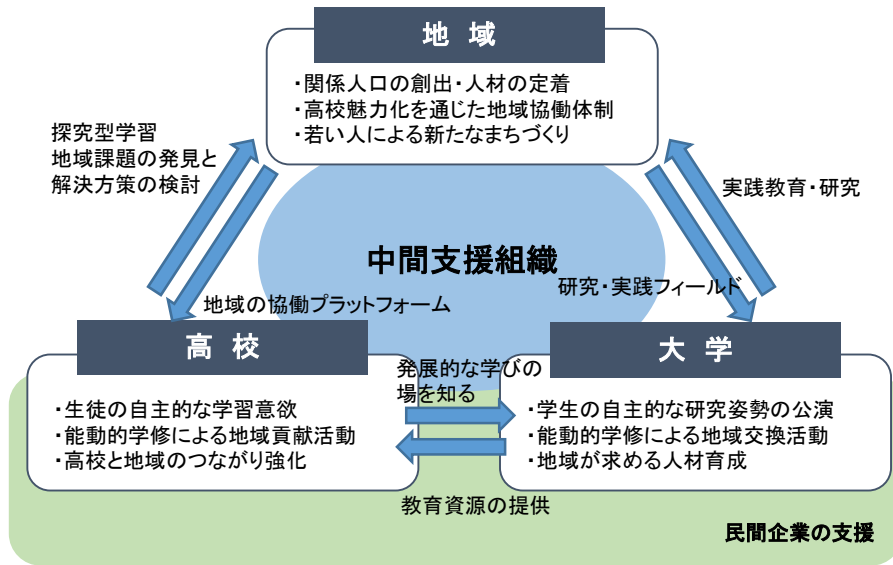


札幌大学 教員発案型授業の開講

単年度で終わることのないよう、3者の意識合わせ等を実施。地域課題解決に興味を持つ大学生を発掘し、スキルアップを図るための新たな授業を大学内で開講

- 提言発表会の場において、道内大学に合格した生徒から、「将来は、むかわ町に帰って学んだことを活かしたい」との発言。地域に戻って地域課題解決に取り組む、人材循環の積極的な可能性がみられた。

## 事業実施体制・関係機関



団体名	役割
一般社団法人北海道総合研究調査会 (HIT)	中間支援組織として、高校・大学・自治体のそれぞれの課題を踏まえ、3者の連携と調整・コーディネートを行う。
株式会社 Prima Pinguino	むかわ町の現地に置いているコーディネーターを活用し、中間支援組織と共に活動することで事業の効果的実施を図る。
北海道鵠川高等学校	探究型学習「むかわ学」の実施。地域との協働のあり方を検討する。
札幌大学	高校生の探究型学習支援。地域課題解決に向けた研究・実践活動を展開する。
むかわ町	むかわ学への支援。公営塾の設置・運営。提言の施策への反映を検討する。

## 波及効果

探究型学習における協働をきっかけとして3者間それぞれに対する理解が深まり、活動の横展開がみられるようになった

- 防災イベントへの大学・高校の参加 (高・大・地域)
- 高校生と大学生が共に参加するセミナー (高・大)
- むかわ町インターンシップ事業の新規開始 (大・地域)
- 高校と大学の相互交流 (高・大) など



防災イベントのチラシ

## 自立化・自走化の検討

令和5年度も鵠川高校、札幌大学、むかわ町の3者で**共同事務局を設置し、取組を継続**させることが合意された

⇒高校生の**提言の実現**に向けた取組へ

## 横展開の可能性

高校・大学・地域の連携による探究型学習の実施が関係人口の創出に寄与

⇒さらに**複数の大学連携**による取組・**他地域への横展開**へ

令和4年度  
関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・検討業務  
業務実施報告書

団体名	一般社団法人北海道総合研究調査会
事業名	高・大・地域連携による人材育成・人材循環の仕組みづくり
選択テーマ	まなび関係人口について（地域内関係人口について）

目次

1	課題の設定	2
1.1	事業の概要	2
1.2	事業実施地域の概要	2
1.3	関係人口の創出・拡大に取り組む目的	2
1.4	調査・検討すべき課題の設定	3
2	モデル事業の取組内容	4
2.1	取組の全体像	4
2.2	事業実施に係る運営体制	4
2.3	実施スケジュール	5
2.4	活動内容	7
2.5	課題解決のための取組	12
3	モデル事業としての成果検証	14
3.1	目標の達成状況	14
3.2	課題解決に向けた成果	15
3.3	その他の成果	17
4	今後の事業のあり方	19
4.1	自立化・自走化の検討	19
4.2	横展開の可能性	20

# 1 課題の設定

## 1.1 事業の概要

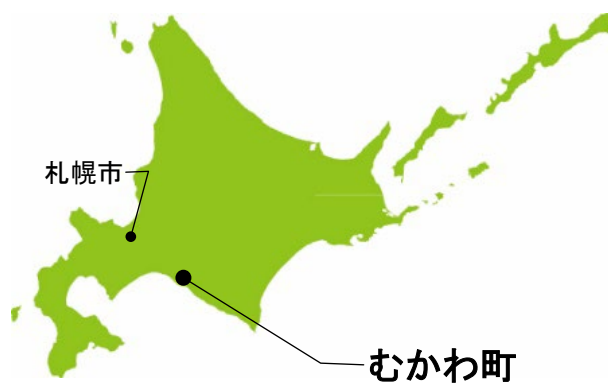
北海道内の地方部にて魅力化に取り組む高校と立地自治体において、地域課題の解決策を探る「探究型学習」にデジタル先端技術を活用しつつ、札幌圏の大学生・大学教員が協働で取り組み、札幌圏と道内地方部を越境・循環しながら地方創生を担う人材を高校・大学から育成する仕組みを構築する。

## 1.2 事業実施地域の概要

北海道むかわ町は、新千歳空港のある千歳市やフェリーターミナルのある苫小牧市の近隣であり、特産の「鵒川ししやも」や国内最大の恐竜全身骨格化石「カムイサウルス・ジャポニクス」が発掘されたことで知られる人口約 7,500 人の町である。地方創生に向けて「地域商社」を立ち上げ、代表には元商社で活躍した人材を招聘。恐竜化石を活かしたビジネスの創出やプロモーションを進めている。

2018 年北海道胆振東部地震が発生し、建物倒壊や山崩れにより多くの被害を出し、町は産業を含め大きな打撃を受けた。災禍を受けた知見を今後の被災地復旧支援に活かすため、地域商社は、研究機関や民間事業者と共同で、くずれた土砂を取り除く小型の災害復旧用特殊ポンプの開発を進めており、今後の地震や土砂災害への対応策を強化するなど、地方創生や強靱化につながるビジネス創出にも力を入れている。

一方、北海道立北海道鵒川高等学校（以下、鵒川高校）は、町内中学生が苫小牧市内の高校に進学するケースが多く、入学者数の減少に悩まされていた。北海道教育委員会は、地方の高校が地域に開かれた高校として地域に根差すよう、高校魅力化の取組を奨励し、鵒川高校の歴代校長が 2016 年からこれに取り組んできた。地域においては、町内の約 30 団体が参加し「鵒川高等学校魅力化コンソーシアム」を設置し、高校の「探究型学習（むかわ学）」やインターンシップを受け入れている。また、鵒川高校は内閣府事業の「地域みらい留学 365」により、今年度も道外から 1 名の生徒を受け入れた。さらに町は 2021 年に「公営塾」を新設している。そうした地方創生、高校魅力化の取組成果が徐々に見られ、入学者数はここ数年上昇基調になりつつある。



## 1.3 関係人口の創出・拡大に取り組む目的

事業実施地域においては、将来に向けて解決すべき課題として 3 つの点があげられる。

- ①地域商社の立ち上げ、高校魅力化の取組など地方創生に関する取組を進めてきたが、高校生の卒業後の地元定着率が低く、また、地域課題に対応する産業・事業の芽が育っていないなどの課題
- ②高校生の進路の選択肢は比較的狭く、大学進学や地元での起業・副業なども含めた将来の道筋を考える視野・視点が育っていないなどの課題
- ③地域の企業においては、大学卒業生を雇用するという考えが乏しく、将来性のある新たな新規ビジネス興しと大学生の採用を検討することができていないなどの課題

一方で、大学では、近年地方へ貢献する人材育成を掲げ、地方創生等への取組も盛んである。本事

業に参加する札幌大学においても、地方出身の学生が多く、大学として継続的な地域貢献プロジェクトを模索しているところである。

中間支援組織（HIT）は地域や大学・高校にヒアリングを行い、現状と課題を整理した。3者は人材育成と人材循環に向けた目標を定め、現状の課題を解決するため2022年3月に包括連携協定を結んだ。



本事業ではこれらの課題解決に向けて、現在鶴川高校で行われている「探究型学習（むかわ学）」において、高校、札幌圏の大学、および行政や地域企業・住民が協働で取り組む場を設定し、上記課題に対応するとともに、人材育成と人材循環の仕組みを構築することを目的とする。

## 1.4 調査・検討すべき課題の設定

高校・大学・地域の3者が連携して人材育成と人材循環の仕組みを構築する上での課題を以下の3点に整理する。

### (1) 高校・大学・地域の3者連携による、高校生・大学生の地域課題の分析力、対応策の構築力の向上と探究学習の質の向上【地域課題の分析力・対応策の構築力の向上】

これまでも高校では探究型学習（むかわ学）を通じて高校生が地域課題を探り、3年間をかけて町への提案をまとめ、提言発表会の場で提言してきた。しかし、高校側では地域課題対応策を考える前提となるデータ分析や地域住民へのヒアリング方法、他事例との比較などや発表方法の面で高校生のさらなるステップアップが必要と考えていた。

そこで、高校生のグループにファシリテーターとして大学生を参加させ、地域課題の把握や対応策の検討を高校生と大学生が一緒に行うことで、高校生・大学生双方の能力を向上させることを目指す。

### (2) 高校生が大学でさらに多くを学びたいと思い、また、大学生が地域における活動や新事業の立ち上げを将来の選択肢として検討することができる意識の醸成【地域と関わる将来像への意識の醸成】

より深く地域課題を考察し、自分ごととして具体的な対応策を検討する経験は、高校生が将来の道筋を考える上で重要な経験になる。大学進学や就職などで地域を離れても、多様な形で地域の課題を解決する可能性がある。

また、大学生にとって地域との関わりは講義で学んだことの実践の場ともいえる。高校生との協働を通じながら大学生も「自分であれば地域で何ができるのか」という問いを持ちながら活動することで、二地域居住など将来の関係人口となる。

地域課題解決やまちづくりが楽しく魅力的なものであるということを高校生・大学生が実感できるよう、地域住民とともにより具体的で実践的な取組の機会を提供することを目指す。

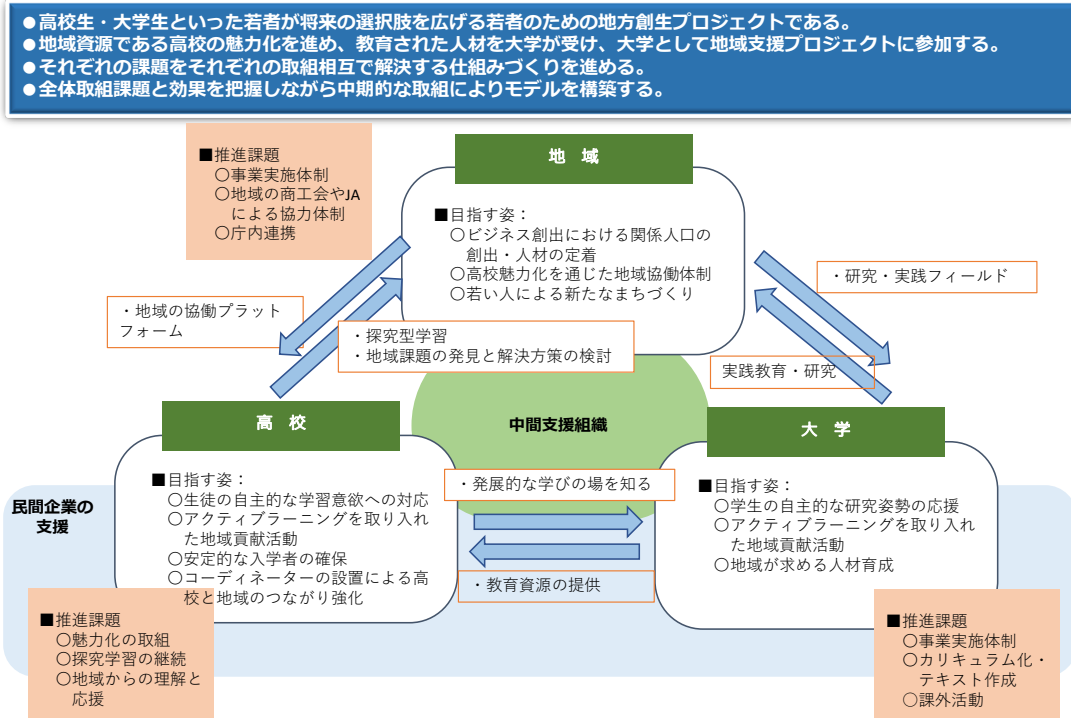
### (3) 高校・大学・地域の3者の合意形成から人材育成のプログラムやプロセス及び人材循環までつながるしなげを整理し、他の地域にも汎用する仕組みの構築【汎用的な仕組みの構築】

3者連携による取組のプロセス等を整理し、他地域、他大学にも適用することができるプログラムの構築を目指す。

## 2 モデル事業の取組内容

### 2.1 取組の全体像

高校が授業で実施している「探究型学習」の活動に、札幌市内の大学生がファシリテート役として関わり、広い視点を持ちながら意見交換することでより深い学びと地域課題に対応した提案を実現する。地域は、高校生と大学生の協働の取組を支えるため、地域課題に応じた地域企業や住民の紹介・マッチングなど行う。高校、大学、地域の3者連携を円滑に進めるため、中間支援組織がサポートを行う。



### 2.2 事業実施に係る運営体制

#### (1) 事業実施体制

中間支援組織の働きかけにより、鶴川高校、札幌大学、むかわ町は、3者間の連携による人材育成・循環、関係人口を創出するため、2022年3月1日に包括連携協定を締結した。将来的には、このモデル事業による3者連携が道内他地域にも横展開、各地域の高校生・大学生が札幌大学を起点（拠点）に交流が創出されるよう先駆的な展開を謳っている。



## (2) 事業実施団体及び関係機関の役割

団体名	役割
一般社団法人北海道総合研究調査会（HIT）	中間支援組織として、高校・大学・自治体のそれぞれの課題を踏まえ、3者の連携と調整・コーディネートし、具体の事業運営をサポートする。
株式会社Prima Pinguino	むかわ町の現地に置いているコーディネーターを活用し、中間支援組織と共に活動することで事業の効果的实施を図る。
鶴川高校	探究型学習「むかわ学」の実施。地域との協働のあり方を検討する。
札幌大学	高校生の探究型学習支援。地域課題解決に向けた研究・実践活動を展開する。
むかわ町	むかわ学への支援。公営塾の設置・運営。提言の施策への反映を検討する。

## 2.3 実施スケジュール

当初の計画においては、高校生と大学生が自由に行き来する「拠点」の設置を想定していたが、大学生の活動可能日に合わせ、節目ごとの高校訪問とオンラインでの意見交換の組み合わせで事業を実施した。実践の機会を確保するため高校生と大学生が参加する販売やイベントの実習機会を新たに設けた。

事業を行う中で、大学生に対して地域課題分析能力やファシリテーション力の養成が必要であると判断したため、新たに「スキルアップ研修」の実施や大学の講義を活用した地域課題分析に関する授業などを行った。

事業内容	2022年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月
1) 地域との関わりを持つ機会・きっかけを創出する仕組みの検討 研究会・幹事会		▲ 研究会 (持ち回り)		▲ 幹事会(第2回) 7/21			▲ 意見交換会 10/21	▲ 実務者会議 11/9			
2) 地域との継続的なつながりを持つ機会・きっかけを創出する仕組みの検討 探究型学習「むかわ学」(※事業外)		▲ 趣旨説明・顔合わせ	授業での取組	▲ 中間発表会 7/20	授業での取組				▲ 提言発表会 12/16		授業での取組
高校生と大学生交えての課外探究学習				▲ 意見交換会 7/1	▲ フィードバック (オンライン) 7/22	▲ むかわ合宿 8/16-18		▲ 意見交換会 11/14			
高校生と大学生の実践機会						▲ クラブ班札幌研修 コスプレイベント開催 9/11	▲ クラブ班販売実習 10/23				
報告会等の開催		▲ まち歩き、人語りの会 5/27	▲ デジタル技術 セミナー① 6/27		▲ デジタル技術 セミナー② 8/18						
大学生のスキル向上		▲ 大学生向け説明会 5/31, 6/7	▲ オリエンテーション 6/17					▲ スキルアップ研修 11/1ほか			
3) 自立化・自定化の検討			▲ アクティブプログラムの実施					▲ 11/9 意見交換会(実務者会議) 自立化・自定化の検討			
4) モデル事業としての成果検証等 (参加者アンケート・報告書作成等)				▲ 中間アンケート 7/25					▲ 完了アンケート 12/23		▲ アンケートとりまとめ
5) 他地域等への横展開の可能性の検討											▲ 成果検証とりまとめ
6) 報告書とりまとめ											▲ 事業のモデル化 報告書とりまとめ

## 2.4 活動内容

活動は大きく2つの流れで実施した。

- 1) 鶴川高校における探究型学習「むかわ学」において、大学生・大学がサポート・協働し、提言発表を支援する → 提言内容の質的向上を目指し、町の施策・将来の事業化案として蓄積される。
- 2) 札幌大学において「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ」とした秋学期講義（15コマ）を実施。理論、むかわ町民・企業の取組事例、ワークショップによる模擬提言 → 次年度以降、アクティブプログラムとしてむかわ学に参加する学生を募る。

活動日程は以下のとおり。

日付	活動名
2022年5月27日(金)	まち歩き・ひと巡りの会
2022年 5月31日(火)、6月7日(火)	札幌大学生への説明会
2022年6月17日(金)ほか	参加大学生向けオリエンテーション
2022年6月中旬	参加高校生の決定
2022年6月27日(火)	デジタル技術セミナー
2022年7月1日(金)	高校生と大学生の意見交換会
2022年7月20日(水)	鶴川高校中間報告会
2022年7月22日(金)	中間報告に対するフィードバック
2022年 8月16日(火)～18日(木)	むかわ合宿
2022年9月11日(日)	【班別活動】クレープ班札幌研修
2022年9月11日(日)	【班別活動】コスプレ班イベント開催
2022年9月30日(金) ～2023年1月27日(金)	札幌大学 教員発案型授業B「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ」(15コマ)
2022年10月23日(日)	【班別活動】クレープ班販売実習
2022年11月1日(火)ほか	大学生スキルアップ研修
2022年11月14日(月)	高校生と大学生の意見交換会
2022年12月16日(金)	むかわ学提言発表会
2022年12月23日(金)ほか	参加者アンケート及びヒアリング

※網掛部（水色）は1)に、網掛部（桃色）は2)に関連した主要活動。

## (1) まち歩き・ひと巡りの会

【日程】2022年5月27日（金） 【参加者】15名

札幌大学の学長及び教職員がむかわ町の現状と課題を把握し、大学生に対してどのような教育を行っていくかを検討するため、大森学長の進行にて地域住民との意見交換の場を設けた。後日、参加いただいた地域住民3名には、札幌大学で実施する「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ」授業に講師を依頼した。

氏名	役職等
小坂幸司 氏	農家（小坂農園代表取締役）、むかわ町観光協会長、むかわ町教育委員
椿 文子 氏	農家（農業指導士、JAむかわ理事）、むかわ町まちづくり委員
山下 康 氏	フラワーヒルズ株式会社 取締役社長

## (2) 札幌大学生への説明会

【日程】2022年5月31日(火)、6月7日（火） 【参加者】20名

札幌大学地域連携センターを中心に、参加学生を募集した。本事業への参加を検討している大学生に対して、事業内容及び事業の背景、むかわ町の現状等について説明会を開催した。説明会の後に大学生に対して参加希望を取り、参加大学生を確定した。また、中間支援組織が、大学生に対して「ファシリテーションとは何か」の講話とグループワークにてファシリテーションの実施指導を行った。

## (3) 参加大学生向けオリエンテーション

【日程】2022年6月17日（金）ほか 【参加者】11名

参加大学生に対して、今後のスケジュールの説明及び鶴川高校のサポート対象の4グループの探究テーマについて説明を行った。さらに、参加大学生のこれまでの経験や関心事項についてヒアリングを行い、4つのグループ分けを行った。

## (4) 参加高校生の決定

鶴川高校3年生において「むかわ学」で活動する10グループのうち、大学生との協働プロジェクトに参加する4グループ（クレープ班、コスプレ班、スマート農業班、キャンプ場班）を決定した。

## (5) デジタル技術セミナー

【日程】2022年6月27日（火） 【参加者】50名

鶴川高校生を対象として「地方創生の背景と取組の必要性」「リバース・イノベーションによる地域課題解決と産業興し」などについて、産業能率大学 藤岡慎二 教授によるセミナーを開催した。本事業の参加大学生もオンラインで参加した。「身近な課題解決に使ってみたい ICT 技術」と題してグループワークを行った。



## (6) 高校生と大学生の意見交換会

【日程】2022年7月1日（金） 【参加者】30名

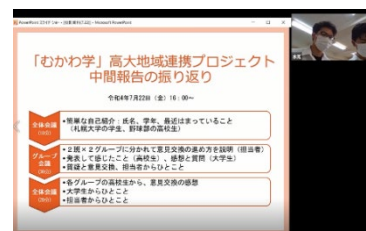
鷗川高校生と札幌大学生が初めて直接対面して意見交換を行った。アイスブレイクの後、大学生から高校生に対して「なぜそのテーマを選んだのか」等の質問を通じた意見交換を行い、高校生が考える地域課題の再確認と今後の進め方についての理解を深めた。



## (7) 鷗川高校中間報告会

【日程】2022年7月20日（水） 【参加者】40名

鷗川高校で行われた中間報告会に大学生がオンラインで参加し、高校生の課題意識や各班が取組を進める上での課題等を確認した。



## (8) 中間報告に対するフィードバック

【日程】2022年7月22日（金） 【参加者】20名

上記で行われた中間報告会での発表を踏まえ、グループごとに分かれながら高校生が発表を通じて感じたことや、大学生が発表を見ての感想や質問等のフィードバックを行った。

## (9) むかわ合宿

【日程】2022年8月16日（火）～18日（木） 【参加者】30名

高校生と大学生が交流を深めるとともに、提言内容を深堀することを目的に合宿を行った。

初日はHIT五十嵐よりむかわ町の人口の現状分析や地域課題と対応策、2030年の社会の姿などの講義を実施した上で、地域課題の原点を見直すワークショップを実施した。2日目はグループ別に地域住民へのヒアリングやフィールドワークを実施した。最終日は、前日のフィールドワークの振り返りや3日間の感想を共有したあと、提言発表会に向けての大まかなストーリーづくりを行った。最後に藤岡教授による将来に向けたテクノロジーの活用に関するグループワークを行い合宿は終了した。

グループワークだけでなく、食事作りやBBQなどの活動を通じて信頼関係が醸成できた。



(10) 【班別活動】クレープ班札幌研修

【日程】2022年9月11日(日) 【参加者】8名

クレープ班の研究内容を深めるため、札幌大学の仲介により札幌市内のクレープ店の市場調査及びクレープ製作研修を行った。



(11) 【班別活動】コスプレ班イベント開催

【日程】2022年9月11日(日) 【参加者】20名

コスプレ班の研究内容を深めるため、むかわ町内の法城寺及びむかわグルメフェスタ会場を舞台としてコスプレイベント「むかわコス」を開催した。



(12) 札幌大学 教員発案型授業 B

【日程】2022年9月30日(金)～2023年1月27日(金) 毎週金曜日 【参加者】54名

地域や地域課題解決の取組に面白さを感じてもらい大学生の関心を高めてもらうため、むかわ町をモデルに半期15コマの授業を実施。前半5コマは「地域課題は面白い」と題し中間支援組織等が講師を務めながら実践例から学ぶ地域課題解決策や地域課題の構造化などを講義。中盤5コマは「地域を支える人材は面白い」と題し、むかわ町の地域住民を講師として招いた。後半5コマは「地域課題の解決案の検討」としてこれまでの授業内容を踏まえ、大学生自ら地域課題解決案の検討を行った。



(13) 【班別活動】クレープ班販売実習

【日程】2022年10月23日(日) 【参加者】7名

提言発表会に向け、研究内容のブラッシュアップを図ることを目的に「クレープ販売実習」を実施した。むかわ町観光協会が運営するチャレンジショップの一角で、開発中のクレープ「mumuCrepe(むむクレープ)」限定20個を販売。高校生がクレープ作成、大学生は広報や販売価格設定に関する面でサポートを行った。



#### (14) 大学生スキルアップ研修

【日程】2022年11月1日（火）ほか 【参加者】10名

提言発表前の最後の高校生と大学生の意見交換会を前に、大学生に提言のまとめ方（課題把握から提言までのストーリー、町への提言としての考え方等）のスキルアップを目的として個別研修を行った。



#### (15) 高校生と大学生の意見交換会

【日程】2022年11月14日（月） 【参加者】20名

鶴川高校生による提言発表会前の最後の意見交換会。班別に作成途中の提言発表内容を確認した後、きっかけ・動機から町への提言内容までのストーリーを明確にした上で、データ等を追加し伝わる提言に向け大学生からアドバイスを行った。



#### (16) むかわ学提言発表会

【日程】2022年12月16日（金） 【参加者】約200名

これまでの「むかわ学」の集大成として、鶴川高校生が「むかわ町をより良くするため」の解決方法を提言した。大学生もその場に参加し、発表後の質問などを行った。

#### 各班の当初内容と提言発表時の内容（大学生が関わった4グループ分）

班	内容（当初）	最終提言内容
クレープ班	地域の中にデザート店がなく、若い人が集まる場がない。むかわ町産の原料を使用してクレープを作りたい。	むかわ町産の米粉、かぼちゃ、小豆を使用したクレープを製作。販売実習を通じて原価計算や市場調査など実施した。町に対して、高校生が継続的に挑戦できる拠点として「高校生カフェ」設置の必要性について提言した。
コスプレ班	むかわ町の知名度が低いのでコスプレイベントを実施し、来訪者を増やしたい。	会場となる地元の寺の住職や来訪するコスプレイヤー等との打合せを踏まえ、イベントを実際に行った。イベント実施にあたりスケジュール管理、広報、予算管理、スタッフ確保など多くの課題が明らかになった。知名度向上には継続的なイベント実施が必要であるため、他の町のイベントとの共同開催や後輩への引き継ぎ等を提案した。
農業班 スマート	後継者不足の農業を支えるため、農作業の簡略化などを図れないか検討し町の農政課へ提案する（ドローンによる農薬散布、自動水やり等）。	大学生と一緒に行った農業者へのヒアリング調査により「農業の自動化」に対するニーズより「害獣対策」に対するニーズが高いことが判明した。そこで、むかわ町で利用可能な「害獣対策」の設備について調査を行い、導入コスト試算などを行い、町に導入の提言を行った。
キャンプ班	穂別キャンプ場を活用して、火おこし体験イベントやテント設置体験イベントなどを実施したい。	穂別キャンプ場の入込客数が減少する冬期にイベントを開催する必要性と可能性を提示。ただし、実行するためにはキャンプ場の設備更新等（バリアフリー対応、水道設備の更新、マンパワーの確保など）が必須である点に気づき、町に対して町民を巻き込んだ施設保全イベントの提案などを行った。

## (17) 参加者アンケート及びヒアリング

【日程】2022年12月23日（金）ほか

1年間の活動を通しての感想や地域への考え方の変化、今後の関わり方などについて把握するため、大学生に対してアンケートとヒアリングを行った。

## 2.5 課題解決のための取組

---

### (1) 「地域課題の分析力及び対応策の構築力の向上」に向けた支援

当初、ファシリテーターを大学生に任せる形で高校生のグループに参加させる予定であったが、ファシリテーションを全て任せるには大学生に経験が少ないことがわかった。そのため、札幌大学と中間支援組織が協力し「大学生向けオリエンテーション」「大学生スキルアップ研修」を実施し、高校生と直接対面する前に大学生側のスキルアップの機会を設けた。

### (2) 「地域と関わる将来像への意識の醸成」を図る実践機会の提供

地域課題の対応策の実現性の向上に向けて、新事業を興す難しさや楽しさ、役割の重要性などを感じることができる実践機会が重要である。本事業では、「クレープ班」が札幌市内でのマーケティング調査やむかわ町での販売実習を行ったほか、「コスプレ班」では関係人口増加に向けたコスプレイベントを実施するなどの機会があり、大学生も参加しながら、高校生との意見交換を行った。

### (3) 「汎用的な仕組みの構築」のための取組

当初より単年度で終わることのないよう高校・大学・地域の意識合わせを行いつつ、節目のイベント後には事務局会議にて意見交換を行い、継続的な実施に向けた取組を進めた。

例えば、札幌大学の授業の一環（教員発案型授業B）として「むかわ町をフィールドに地域課題を学ぶ（15コマ）」を開講し、今後地域課題解決に興味を持つ大学生の発掘及びその大学生の課題の分析力、対応策の構築力向上に向けた取組を行った。



### 課題解決のための取組と各活動内容との対応

	(1)「地域課題の分析力及び対応策の構築力の向上」に向けた支援	(2)「地域と関わる将来像への意識の醸成」を図る実践機会の提供	(3)「汎用的な仕組みの構築」のための取組
(1) まち歩き・ひと巡りの会			○
(2) 札幌大学生への説明会	○		
(3) 参加大学生向けオリエンテーション	○		
(4) 参加高校生の決定			
(5) デジタル技術セミナー	○		
(6) 高校生と大学生の意見交換会	○		
(7) 鷗川高校中間報告会	○		
(8) 中間報告に対するフィードバック	○		
(9) むかわ合宿	○	○	
(10) 【班別活動】クレープ班札幌研修		○	
(11) 【班別活動】コスプレ班イベント開催		○	
(12) 札幌大学 教員発案型授業B	○		○
(13) 【班別活動】クレープ班販売実習		○	
(14) 大学生スキルアップ研修	○		
(15) 高校生と大学生の意見交換会	○	○	
(16) むかわ学提言発表会		○	○
(17) 参加者アンケート及びヒアリング			○

### 3 モデル事業としての成果検証

#### 3.1 目標の達成状況

事業の目標については、ベースラインが設定されておらず今回指標となる値を求めた項目もある。把握できた目標値（指標値）は下表のとおり。

事業の目標・達成状況

目的	指標	達成状況
(1) 地域課題の分析力・ 対応策の構築力の 向上	(1-1) 地域外の社会資源を活用した地域課題 解決提案（1件以上）	高校生と大学生が協働で取り 組んだ4テーマのうち2テー マで地域外の社会資源を活用
(2) 地域と関わる将来像 への意識醸成	(2-1) 高校生がまちづくりに高い関心を示す 割合	「むかわ町やその近くに住ん で、地域課題に関わりたい」 38.5%
	(2-2) 地方で貢献できると感じる参加大学生 の割合	地域課題解決策の提案・実施 に関心を持つ大学生 83.8%
	(2-3) 二拠点活動に関心をもつ大学生の割合	本業を通じて地域に貢献した い大学生 54.5%
(3) 汎用的な仕組みの 構築	(3-1) 高校生や大学生が「むかわ町の取組を 誰かに薦めたい」と考える割合	高校生（3年生） 「積極的に紹介したい」37.9% 大学生（参加大学生） 「紹介してもよい」100.0%
	(3-2) 取組に関わりたいと考える地域住民の 割合	「むかわ学」の取組に関わり たい：37.5%

#### (1) 地域課題の分析力・対応策の構築力の向上

##### (1-1) 地域外の社会資源を活用した地域課題解決提案

大学生が関わった4テーマのうち「スマート農業班」では道内別地域での害獣対策を提言、「コスプレ班」も地域外のコスプレイヤーとの打合せを行うなど地域外との関わりを持ちながら検討を進めた。

また、「クレープ班」「キャンプ場班」も地域の企業等との連携を想定した提言となっており、社会と多くの関わりを持ちながらの提案につながった。

## (2) 地域と関わる将来像を想起できる実践機会の提供

### (2-1) 高校生がまちづくりに高い関心を示す割合

鵜川高校2～3年生全体では「将来むかわ町やその近くに住んで地域課題に対応する活動に関わりたい」と回答した割合が27.7%であった。そのうち、本事業で大学生と関わりのあった高校3年生だけで見るとその割合は38.5%になった。

### (2-2) 地方で貢献できると感じる参加大学生の割合

大学生に対して「地域課題解決策の提案・実施に関心を持ったか」とたずねたところ、高校生と関わりを持った大学生では「大いに関心がある」18.2%、「関心がある」81.8%、秋学期授業参加大学生では「大いに関心がある」29.0%、「関心がある」54.8%であった。

また、秋学期授業参加大学生に「地域にも仕事や活動の場があることを理解したか」とたずねたところ「大いに理解した」54.8%、「理解した」45.2%であった。

### (2-3) 二拠点活動に関心をもつ大学生の割合

「将来、自分の居住地以外の『地域』に貢献したいと思うか」と5段階評価でたずねたところ、高校生と関わりを持った大学生の貢献したい割合（5・4を選んだ割合）は「本業を通じて貢献したい」54.5%、「兼業や副業を通じて貢献したい」36.4%、「仕事以外の活動を通じて貢献したい」36.4%であった。

## (3) 汎用的な仕組みの構築

### (3-1) 高校生や大学生が「むかわ町の取組を誰かに薦めたい」と考える割合

参加した高校生、大学生に対して「（鵜川高校の探究型学習の取組について）他にも紹介したいと思うか」とアンケートによりたずねたところ、高校3年生では37.9%が「積極的に紹介したい」、関わった大学生全てで「紹介してもよい」との回答を得た。

### (3-2) 取組に関わりたいと考える地域住民の割合

探究型学習の取組に関わりたいという地域住民の割合は、「関わりたい」が37.5%となっており、「誘われたら関わりたい」まで含めると約6割が探究型学習に関わりたいと考えており、継続的な取組の素地ができたといえる。

## 3.2 課題解決に向けた成果

---

### (1) 大学生や大学のサポート・協働によって向上したと考えられる力

高校生・大学生の協働により探究学習の質の向上を目指してきた中、下記の3つの力について高校生・大学生に身についたと考えられる。具体的なエピソードと併せながら列挙する。

#### ① 町民や専門家話を聞き、理解する力

例：「スマート農業」チーム大学生と一緒に農家ヒアリングに行き、農家の話から「農業の課題は、害獣被害」ということに大学生が気づき、高校生にもアドバイス。

#### ② 仲間（高校生・大学生）と意見交換し、自分の考えや行動を整理する力

例：「クレープ」チームの課題把握と行動をみて、大学生がクレープ製造、原価計算、販売方法、町への提言（高校生カフェにまで進化）を支援。最後は、高校生がそれらを整理して、提言発表につなげた。

### ③地域課題の分析から提言までのストーリーをまとめる力

例：「キャンプ」班は、課題把握も提言のための行動も興せていなかったが、大学生が「やるならとがったキャンプ場を調べてみたら」「現状把握が重要」とアドバイス。観光入込のデータ整理、事例調査、冬のキャンプ場活用の提言につなげた。

なお、このような変化は、グループについて活動を支援している高校の教員の理解と支援があったからと考えられる。

## (2) 二地域活動など意識の変化

### ①大学生の意識

高校生と直接関わりを持った大学生に事業終了後個別ヒアリング調査を行った中で、二地域活動や地域課題への取組に関しての意識の変化についてたずねたところ、下表のような回答を得た。

直接、高校生を含む地域住民と会うことで、地域の課題が身近になりさらに自分でもできるということを実感できたことで、むかわ町だけでなく人口減少に直面する地域全体へ関わろうという意識変化につながったといえる。

取組前	取組後
就職先は札幌市内または東京へ行くかの選択肢しか考えていなかった	地方で働く姿を想像できたので、「地方で働くこと」が選択肢の一つとなった
地域の課題を漠然と捉えていた	小さな課題解決が重要であると理解できた（今回の経験を別の町の地域課題解決提案に活かすことができた）
地域に関わりたいと思っていたが心理的ハードルが高かった	自分たちが「やろう」と動き出すことで町の人との協力が得られることを実感できた
地域の活動に何か関わりたい	地域の課題を具体的に知ることができ、自分だったらどうするかと考えることができた。直接地元の人と話せる場づくりを検討したい

### ②高校生の意識

高校生の変化を間近で見てきた高校教員の意見としては、本事業の成果を下記のように捉えた。

- ・高校生は、新しいアイデアが出て「実現するのは無理だろう」と諦めることが多かった。年齢の近い大学生が「こうしたらやれるのではないか」とアドバイスすることで高校生側も挑戦してみようという積極的な姿勢がみられるようになった。
- ・高校生が地元では当たり前と捉えていたことが、大学生と意見交換する中で新たな魅力を発見できた。
- ・高校生の経験の中だけでは捉えられなかった課題や問題点を、大学生の視点で指摘してもらえたことが、高校生にとって良い刺激になっていた。

### (3) 長期的なプログラムの構築

#### ①地域に還元したいという意識

提言発表会の場において、道内小樽商科大学に合格した生徒から、「将来は、むかわ町に帰って学んだことを活かしたい」との発言があった。本事業に参加した高校生が地域に戻って地域課題解決に取り組む、人材循環の積極的な可能性がみられた。

また、コスプレイベントの例では昨年度企画だけ行い実行できなかった卒業生が今年度3年生のサポートのためにイベント当日に参加した。この卒業生はコスプレイベントをむかわ町で開催できるということも理由の一つとして地元で就職を決めたとのことである。高校時代に携わったイベントがつながっていることを契機として人材が循環する例と言える。

#### ②町の施策としての蓄積

提言発表会の際には、町から町長、教育長のほか、総務企画課、農林水産課、経済建設課などからも担当者が出席しており、大学生の支援を受けた高校生の提言が、町の施策案として蓄積されていく第一歩となったと言える。

## 3.3 その他の成果

---

探究型学習における協働をきっかけとして、3者間それぞれに対する理解が深まり、探究型学習以外の協働の取組への発展や、活動の横展開がみられるようになった。

#### (1) 防災イベントへの大学・高校の参加

2018年の胆振東部地震の教訓を伝えるため、むかわ町で開催された「むかわ町復興応援フェスタ」に札幌大学も実行委員会の構成団体として参画した。今年度はブース運営補助として大学生が関わり、次年度からは大学生・高校生が主体的な参加になるよう検討している。

#### (2) 高校生と大学生が共に参加するセミナー開催

むかわ町穂別診療所で副所長を務める香山リカ氏の講演会に高校生・大学生が参加。講演会での学びを深めるために、高校生と大学生がオンラインにて事前・事後学習を一緒に行った。高大混合グループでのディスカッション学習では大学生がファシリテートを担当した。

#### (3) むかわ町インターンシップ（新規事業）の開始

むかわ町では札幌大学との協働の中からヒントを得て、「ムカワカレッジ（むかわ町地域おこし協力隊インターン）」と名付けた2週間～3か月のインターンシップ事業を新たに開始した。大学生をはじめとした多くの若者がこの事業を通じてむかわ町を学び、地域おこしを体験することを目的に12月から募集を行い、むかわ町に関心のある札幌大学生2名、東京圏の大学生1名が着任した。①行政事務支援（まちづくり・地方創生業務、観光業務、一般事務など）、②むかわ学（地域課題型探究学習）における高校生の企画立案支援（ファシリテーター業務など）、③幼児、小中学生とのスポーツ・イベント交流支援、④都市部の大学との連携事業の企画立案、⑤ムカワカレッジ（むかわ町地域おこし協力隊インターン）の業務サポートなどを行なった。

#### (4) 高校と大学の相互交流

鶴川高校の1年生が「上級学校体験」として札幌大学を訪問した。また、札幌大学で学んでいる留学生（5か国8名）が鶴川高校を訪問し高校生と意見交換を行った。高校生からは「他国の文化や伝統について学ぶことができ良かった」との声があり、留学生にとっても札幌市以外の地域に触れる貴重な機会となった。

## 4 今後の事業のあり方

### 4.1 自立化・自走化の検討

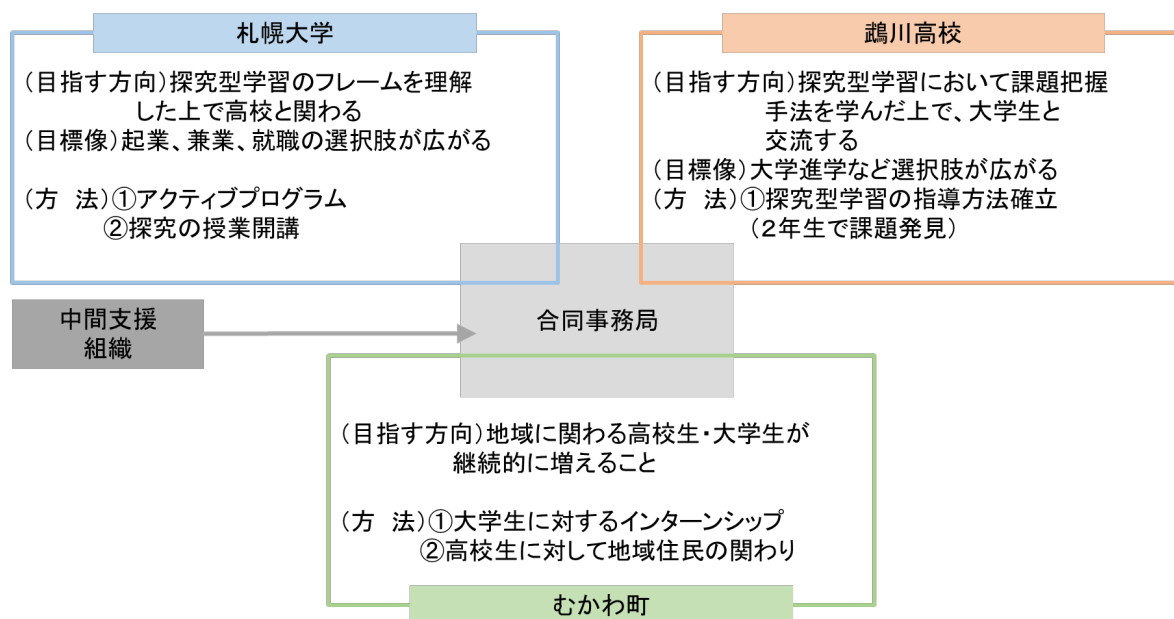
鶴川高校、札幌大学、むかわ町及び中間支援組織で本事業の実績を踏まえて、次年度に向けた取組について話し合いを行った。

	札幌大学	鶴川高校	むかわ町
	【 共通目標 】 人材育成・人材循環		
基本目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むかわ町の取組姿勢を学生が学ぶ(知る) →関心を高める</li> <li>・「むかわ学」を通じて、協働による課題発見ができる</li> <li>・相互の交流→外野の立場から一歩踏み出す</li> <li>・高校生との視点の違いを知る</li> <li>・実際に行くことで「第2のホーム」と感じられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習に大学生・教員が加わり、学習が深化・専門化し、発展性が見える</li> <li>・日常のつながりにより、大学進学も含めて進路が広がる</li> <li>・提言内容の質的向上を図る</li> <li>→実際に町の施策として検討してもらうことを増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生が自主的・主体的に町に来る仕組みを構築したい</li> <li>・これが「むかわ学」に波及する</li> <li>・発見する喜びを本人が味わうような組み立て(大人が関わりすぎないこと)</li> <li>・一人でも将来町に関わることが「成果」</li> </ul>
実績を踏まえて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋学期「むかわ町を通じて地域課題を学ぶ」授業を開始</li> <li>・むかわ町の困り事を実感できるように</li> <li>・1年を通じて、むかわ学に関わるアクティブプログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生で課題設定を行う(その際に、こまりごとはないか?)</li> <li>・提言まとのめとして「説得力」のあるものにした</li> <li>・できるだけ対面で実施したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップを新規事業で開始(2週間から3ヵ月)</li> <li>・テーマとして「むかわ学」。高校生の探究学習にも波及するようにしたい。</li> <li>・公官塾プラス人材確保(予算化を検討)</li> </ul>
実施に向けた意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の発見方法、整理方法、情報収集の方法、提案しての表現の方法 → 共通認識をもつことが必要。そのための手法を作ることが必要。</li> <li>・それらを協働の学習の前に実施しておくことが必要。大学生にも探究の体験が必要。</li> <li>・高校生の探究が「商品開発」「イベント」に偏るのは、モノとして見えやすく自己効力感につながりやすいから。</li> <li>・大学生・高校生がアントレプレナーであり、大人はメンター。このバランスをどうとるか。</li> <li>・大学生・高校生が「むかわ町」と「探究学習」が面白いと感じることが、地域への関係人口につながる。</li> </ul>		

令和5年度においても引き続き、鶴川高校、札幌大学、むかわ町の3者で取組を継続させることが合意された。地域課題の分析力や対応策の構築力の向上などで必要な部分については中間支援組織(HIT・Prima Pinguino)が支援する。

次年度の進め方としては、

- 札幌大学・鶴川高校・むかわ町の3者で共同事務局設置(HITとPrima Pinguinoは中間支援組織として関わりを継続)
- 提言とりまとめまで2年をかけるようにスケジュール調整
  - ・高校生は2年生から
  - ・大学生はアクティブプログラム(半期2単位、年間4単位)を基本に、2～3年生が中心
- 課題発見は、町の行政、住民、企業などの大人と一緒に、高校生・大学生が参加して行う(6月)
- 町への提言発表会は9月に開催。
- 「鶴川高校・札幌大学・むかわ町3者連携」のプログラム化案の作成と共有を行う
  - ・札幌大学で秋学期に実施する「むかわ町・鶴川高校・札幌大学プログラム」(主に1年生を対象)の原案を作成し、意見交換。



## 4.2 横展開の可能性

本事業において、高校・大学・地域の連携による探究型学習の実施が、関係人口の創出に寄与することが把握できた。

ただし、円滑に運営していくためには「中間支援組織」の役割が重要である。「中間支援組織」の役割としては、

- 高校教員が異動しても取組を継続するための手引書作成
- 高校魅力化の深化
- 大学生への地域課題理解促進
- 提言内容の地域における実現サポート（高校生・大学生・地域住民の協働） など

があげられる。

地域との関わりを持ち、学びの実践の場を持つという点で札幌大学の取組は、道内の大学から注目を集め、問い合わせも多く寄せられている。こうした状況も踏まえ、次年度は活動の横展開として、高校・大学・地域の連携に加え、複数の大学の連携による取組となるよう現在準備を進めているところである。